



金沢城と桜
金沢城公園とそれに隣接する兼六園は
北陸有数の桜の名所

北陸の冬は鉛色の空に覆われて、真っ白な雪に閉ざされた世界になります。長く感じる冬だからこそ、春の訪れを待ち焦がれ、桜が咲くと百花繚乱、周りが明るくなり私たちの心も躍ります。

さて、「桜が咲いたら山火事注意」という言葉があります。

桜の開花が同じ地点を結んで地図上に表した「桜前線」は、3月下旬に九州南部や関東南部の平野部から北上、あるいは麓から山頂に向かって進み、5月初めに北海道に達します。一方、林野火災(山火事)が多発する地域を結んだ線「山火事前線」は、桜前線と同じ頃、同じように南から北、平地から山地へと移動します。山火事は季節的な特徴があり、4月をピークに5割以上が春(3月～5月)にかけて集中して発生しています。春先は雪がと

また、春は全国的に空気が乾燥する時期です。日本海側の冬は雪や雨の降る日が多いため湿度が割と高いですが、春になり晴れる日が増えてくると極端に湿度が低くなる日が出てきます。北陸各都市の日最小相対湿度のランキングを見てみます

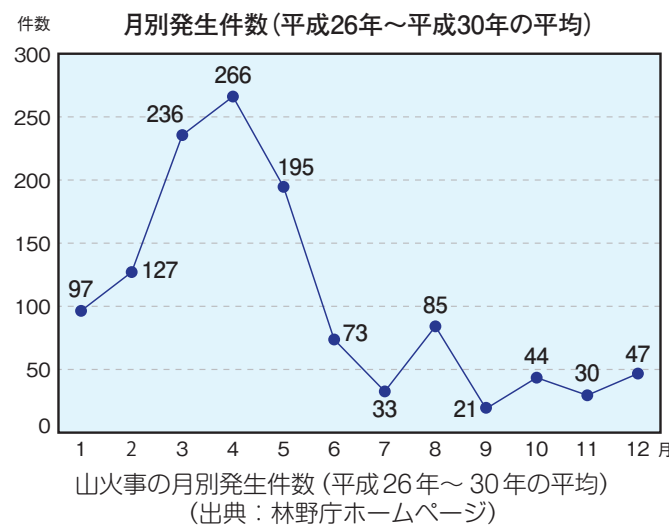
	金 沢	福 井	富 山	新 潟
1位	4% 2005年4月6日	6% 2001年4月23日	7% 2013年5月9日	11% 2013年5月9日
2位	7% 2019年4月16日	7% 2016年4月16日	7% 2005年4月6日	12% 2015年4月23日
3位	8% 2018年3月13日	7% 2014年4月15日 ほか	9% 1996年4月29日	12% 2006年4月15日 ほか

北陸各都市の最小相対湿度のランキング(出典:気象庁ホームページ)
3月から5月がランキングの上位を占める

また、春先の火災で特に注意しなければならないのが「フェーン現象」です。

フェーン現象は風が山を越えて斜面に沿って

けることで行楽や山菜採りのために山に入る人が増加するほか、農作業に由来する枯草焼きなどが山林に飛び火するためです。

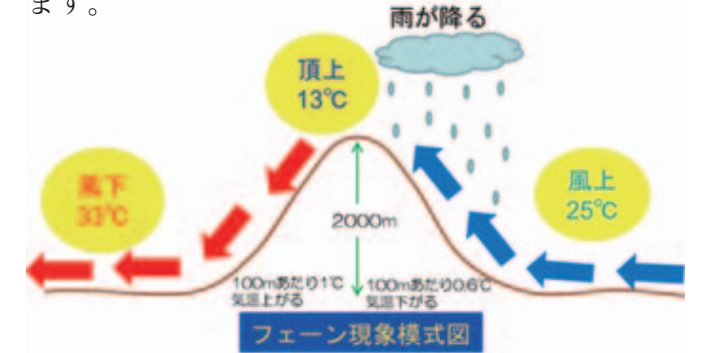


と、すべて3月から5月に集中しています。2005年4月6日は、大陸からの移動性高気圧に覆われて乾いた空気が運ばれ空気が異常なほど乾燥。金沢では最小湿度が4%まで下がりました。

山を下りてくるときに、山の下りた側で気温が高くなる現象をいいます。フェーンはもともとヨーロッパのアルプス山麓に吹く局地風のこと

を指していましたが、現在は日本も含めて世界各国、ほかの地域でも同様の現象が確認されたことから「フェーン現象」と呼ばれています。北陸地方では、太平洋側からの湿った空気が白山や立山などの山脈にぶつかると雲を発生させて雨を降らせます。そして風が山を越えて北陸地方に吹き降りる際には、水分がほとんどなくなり乾燥した風になるのが特徴です。春先の日本海では低気圧が発達しやすく、南からの暖かく湿った空気が流れ込みやすくなることで、風下側の日本海側の地域では強風を伴って、乾燥した空気が流れ込むた

め火災の起こりやすい条件がそろうことになります。



金沢の街並みは火災の影響によって大きく変わった歴史があります。江戸時代、藩政時代の金沢は火災が多く、江戸時代のおよそ260年の間に4回も大火に見舞われました。特に3月から4月にかけての時期に火災が多く発生していて、これらは春先から初夏にかけての北陸地方特有のフェーン現象に起因するものでした。

中でも大きな被害をもたらしたのは、1631年(寛永8年)4月14日。金沢城下の法船寺から出火した火事は、フェーン現象が重なりまたたく間に本丸辰巳櫓に飛び火し、本丸はじめ城の中心部の大半が類焼しました。これは寛永の大火、あるいは金沢大火とも呼ばれています。

この大火を受けて防火の必要が高まり、道路が整えられて、武家屋敷や町屋の位置が整理されました。翌年の1632年(寛永9年)に犀川から水を引く辰巳用水が造られ、城内の堀も水堀となりました。防火機能が高まり、その余水は城下町の用水として利用され、城下町の防火にも役立ちました。現在、辰巳用水は兼六園の曲水の主要な水源となっているなど、いまま金沢市の街中を流れています。



現在も金沢市内を流れる辰巳用水

コロナ禍での状況ではありますが、春は例年ですと、桜が咲くころのお花見、新緑豊かな山へのハイキング、河辺でのバーベキューなど私たちも外に出て活動する機会が多くなってきます。一方で、まだ冬の名残の寒さがあり朝晩は家の中でストーブを使って寒さをしのぐことも考えられます。桜が咲くころは暖房器具の取り扱い、たばこの始末、火の消し忘れなど火の取り扱いにはくれぐれもご注意ください。

いけづまさのり
池津 勝教 Profile

NHK金沢放送局「かがのとイブニング」気象予報士・キャスター
防災士・環境社会検定(eco検定)
環境省 地球温暖化防止エキスパートコミュニケーター

栃木県生まれ。早稲田大学第一文学部総合人文学科卒業。大学卒業後に気象予報士の資格を取得。気象に関する知識を活かし、学習塾で小・中学生に理科を中心とした授業をおこなう。

2011年に民間気象会社に転職。原稿作成やラジオ出演などをおこなう。

2013年春からはNHK金沢放送局の気象キャスターとして、「かがのとイブニング」「じわもんラジオ」などに出演中。

気象コーナー「池津さんのそらなび」では「覚えておきたい防災情報」や「知って得する豆知識」をテーマに様々な気象の話題を紹介。

